

分野		科目名		配当年次		開講期	
専門基礎分野		公衆衛生学		3 年次		前期	
単位数		時間		担当教員		実務経験の有無	
1 単位 (30 時間)		30 時間		元大学 講師		無	
授業 の 概要	疾病は個体の遺伝的要因に自然環境要因と社会文化的環境要因が複雑に絡み合っ て発症する。授業では、温度・水・空気・放射線などの物理的・化学的自然環境 要因、病原体などの生物学的環境要因、喫煙・飲酒などの生活習慣による社会 文化的環境要因が人の健康に与える影響を理解する。また、乳児から高齢者 に至る保健対策や健康水準、医療制度についても学ぶ。広範囲な領域なので、 講義への集中が望まれる。講義は、教科書とパワーポイントで実施する。						
到達 目標	1. 物理的・化学的・生物学的環境要因が人にどのような健康被害を及ぼすの か、人が自然環境にどのような影響を与えるのかを知り、その相互関係を説明 できる。 2. 我が国の健康水準を述べることができる。 3. 日本人の生活習慣の現状を知り疾患と関連づける。 4. 我が国の保健医療制度を理解できる。						
授業 計画	No.	授業内容				授業方法	備考
	1	健康の概念、公衆衛生の歴史				講義	
	2	健康の指標				〃	
	3	感染症とその予防①				〃	
	4	感染症とその予防②				〃	
	5	食品保健と栄養				〃	
	6	生活環境の保全①				〃	
	7	生活環境の保全②				〃	
	8	地域保健活動				〃	
	9	学校保健				〃	
	10	生活習慣病の予防①				〃	
	11	生活習慣病の予防②				〃	
	12	生活習慣病のリスク因子①				〃	
	13	生活習慣病のリスク因子②				〃	
	14	産業保健①				〃	
	15	産業保健②				〃	
評価	講義終了後、国家試験形式の試験を定期試験で実施する。筆記試験 100 点。						
参考 文献	教科書：わかりやすい公衆衛生学（ヌーヴェルヒロカワ）						
備考							